

青森市埋蔵文化財調査報告書 第83集

ごう し ざわ まつ せり

合子沢松森(2)遺跡

発掘調査概報Ⅱ



平成 17 年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、昨年度に引き続き、東北新幹線建設工事に伴う合子沢松森（2）遺跡の発掘調査を実施いたしました。

今年度の調査では、昨年度と同様、平安時代の堅穴住居跡、円形周溝、井戸跡、溝跡などの遺構や土師器、須恵器などの遺物が検出されました。

本書は、これらの調査成果について、写真図版を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が埋蔵文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより一般市民の皆様にも広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後に、本調査を実施するにあたり、ご指導・ご協力下さいました関係機関および関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成 18 年 3 月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮二郎

例 言

1. 本書は、東北新幹線建設工事に伴う合子沢松森（2）遺跡（遺跡番号01262）の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受け、青森市教育委員会が平成17年度に実施した。
3. 調査は、昨年度に引き続き実施した。今年度は第2次にあたる。昨年度の調査成果については、『合子沢松森（2）遺跡発掘調査概報』（2005 青森市埋蔵文化財調査報告書 第80集）として刊行しており、本書は2冊目となる。
5. 本書の執筆は、嶋影壮憲（青森市埋蔵文化財調査員）・稲垣森太（青森市埋蔵文化財調査補助員）が行い、編集を嶋影が行った。
6. 本書の内容は、平成18年3月末日における整理段階のもので、発掘調査報告書は来年度刊行する予定である。
7. 発掘調査の実施にあたって、次の機関からご指導・ご協力をいただいた。厚くお礼申し上げます。

青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、
青森県立郷土館、南部二区連合町会

目 次

序	
例言	
目次	
はじめに	1
遺跡の環境	2
今年度の調査から	4
検出遺構	6
出土遺物	10
まとめ	12

はじめに

合子沢松森（2）遺跡は、青森市の中心市街地から南へ直線距離約6km、車で約20分の所にあります。付近一帯は畑地や宅地、山林となっています。

本遺跡は、平成7年に青森市教育委員会が行った分布調査で見つかりました。分布調査では、市内各地の畑などをたんねんに調べながら歩き、土器や石器を見つけます。見つかった土器のかたちなどの特徴から、合子沢松森には平安時代の遺跡があることが明らかになりました。多くの遺跡はこのように、土器や石器などの「もの」によって、初めてその存在が知られます。

今回の遺跡内に、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団、以下鉄道・運輸機構と称す）により東北新幹線が建設されることになり、青森市教育委員会が新幹線建設工事に前に遺跡を調査することになりました。工事が始まると、それによって地下に埋もれている遺跡が壊されてしまいますから、事前に記録保存を目的とした発掘調査を行います。発掘調査は、鉄道・運輸機構と青森県教育庁文化財保護課の協力のもと、平成16・17年の2か年にわたり実施しました。発掘作業に従事していただいたのは、青森市内の地元の多くの方々です。発掘した面積は7,750㎡です。

現在は、調査の記録や土器などの出土遺物を整理する作業を行っています。調査の成果については、今後、発掘調査報告書として刊行する予定ですが、本書では調査でわかったことの概要について報告します。



遺跡の環境

遺跡の位置と環境

合子沢松森（2）遺跡は、青森県青森市大字合子沢字松森にあります。合子沢地区にある稲荷神社の南側に位置しています。

青森市の地形は主に、北に青森湾に面する青森平野とこの平野を取り囲むようにして、東側に東岳を中心とする山地、南東から南側に八甲田山を中心とする火山地、南から西側に大釈迦丘陵地、西側に梵珠山に連なる丘陵地となっています。八甲田山を中心とする火山地から延びる台地は、青森平野へ張り出しています。雲谷峠のあたりを水源とする合子沢川は、この台地を貫いて、青森湾へ向かって北へ流れています。本遺跡は、この合子沢川の左岸の河岸段丘上に立地しています。標高は約 35 ～ 50m です。

周辺の平安時代の遺跡

市内には、現在約 380 か所の遺跡があり、そのうち平安時代の遺跡は半数近くにのぼります。本遺跡がある八甲田山の火山性台地の端には、多くの遺跡が分布しています。本遺跡の周辺にもいくつかの平安時代の遺跡が存在しています。

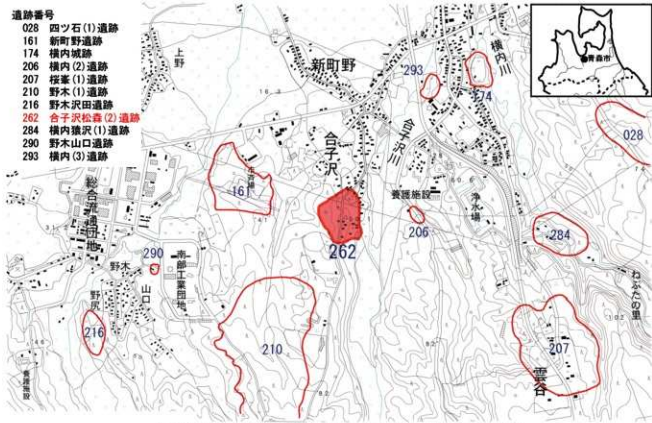
本遺跡の西側約 300m には、しんまちの新町野遺跡があります。新町野遺跡も東北新幹線建設工事に伴い、平成 15 年度から青森市教育委員会が発掘調査を行っています。また新町野遺跡は、市道改良工事や青森中核団地造成整備事業に伴い、たてあなじゆうきよあと えんげいしゅうこう青森県埋蔵文化財調査センターや当委員会により、発掘調査が行われています。調査の結果、多数の堅穴住居跡や円形周溝などが見つかっています。

本遺跡の南西側約 300m には、平安時代の大集落の野木遺跡があります。堅穴住居跡や掘立柱建物跡、畑の跡と思われる畝状遺構、鉄生産関連の遺構などが見つかっています。

新町野遺跡や野木遺跡の西側は遺跡の分布密度が薄く、野木沢田遺跡や野木山口遺跡が点在しています。



青森湾から見た合子沢松森（2）遺跡と周辺の地形（カシミール3D ver7.7.3を用いて作成）



合子沢松森(2)遺跡及び周辺の平安時代の遺跡(1:25,000)



遺跡全景

今年度の調査から

今年度の調査は、平成17年5月9日から7月8日まで4,250㎡の範囲を対象に実施しました。調査区は部分的に、宅地造成工事や道路工事のため、削られていました。特に、調査区の中央部分は大きく壊されていて、遺構はほとんど残っていませんでした。

2か年の調査の結果、遺跡は主に今から約1,100年前の平安時代の村の跡であることがわかりました。今年度の調査で見つかった遺構は、堅穴住居跡や土坑、井戸跡、焼土、柱穴、溝跡、円形周溝などです。遺構の分布は、昨年度と同様、調査区の東西に分かれています。特に西側の遺構密度は高く、堅穴住居跡とそれを壊してつくられた円形周溝、さらに円形周溝を壊してつくられた溝跡のように、比較的多くの遺構が重複しています。

出土遺物は、土師器や須恵器、羽口や支脚などの土製品、鉄製品や鉄滓（鉄のかす）などが見つかっており、そのほとんどが遺構の中から見つかっています。縄文時代の遺構は見つかっていませんが、少量の縄文土器が出土しています。

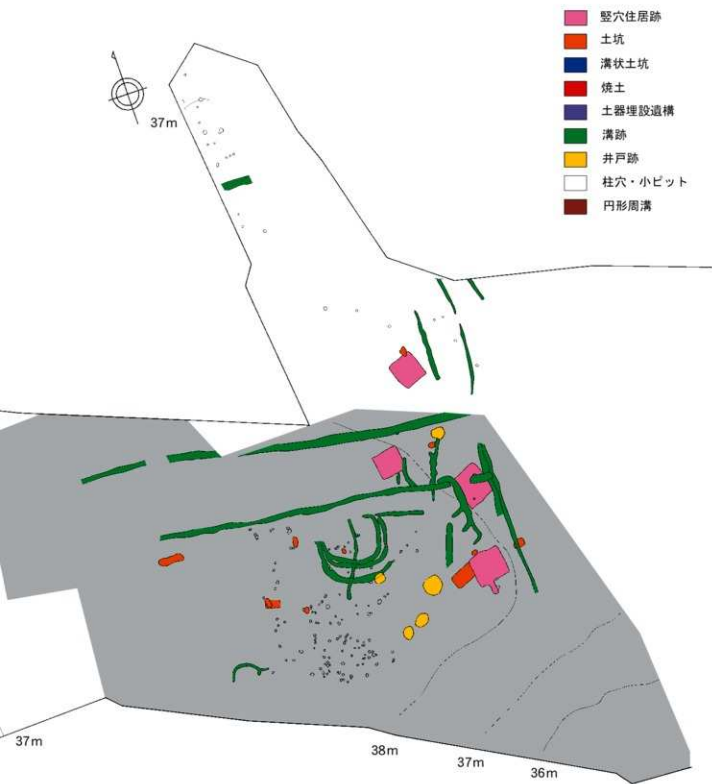


発掘調査風景



発掘調査風景





遺構分布概略図 (1:500)

検出遺構

竪穴住居跡

竪穴住居は、わが国の原始・古代の代表的な住まいで、古墳時代以降の住居の平面形は正方形に近いものです。青森県では、奈良時代以降に平面形が方形の住居がつくられるようになりました。大きさは様々で、小さいもので約6畳、大きいもので約40畳、標準的なものは10～20畳くらいです。1軒の住居には5～6人が住んでいたと考えられます。住居は地面を掘りくぼめて床をつくり、そこに屋根をかけたものです。床は土間で、ワラなどを敷いて生活していたでしょう。また、奈良・平安時代の竪穴住居は1軒ごとにつくり付けの竈をもっていました。竈は大陸から伝わったもので、調理や暖房に使われました。竈は粘土で作りますが、竈の中には使ったあとの土器を芯材として入れたものがたくさんあります。竈には、土器の甕（今の鍋・釜にあたる）をかけて、米などを煮炊きしていました。どの住居にもだいたいの竈があり、一軒の住居で生活していた人々は、食事をともにしていたと考えられ、これが最も基本的なまとまり（家族）といえるでしょう。

今年度の調査では、竪穴住居跡は調査区西側の標高の高い部分から5軒、東側の標高の低い部分から1軒の計6軒が見つかりました。昨年度の調査分とあわせると12軒になります。これらの住居跡に設置される竈の向きには、北向きや東向き、南向きなどがあります。その竈の構造には、煙道が地下につくられる「地下式」と煙道が半分ほど地下を通る「半地下式」と違いが見られます。構造の違いは、住居が建てられた時期の差であるとも考えられます。また本遺跡では、住居跡の中に焼けて赤く変色した土や多量の炭化した木材が出土しているものがあります。これらは焼失住居と呼ばれているもので、今年度では2軒見つかりました。



竪穴住居跡



竪穴住居跡



竈



刻書土器出土状況

焼失した竪穴住居跡は調査区南西端に位置し、円形周溝と一部重複しています。土層観察の結果から、住居よりも円形周溝が新しくつくられたことがわかりました。住居跡の平面形はほぼ正方形で、大きさは約5.1m×約4.9mで約15畳分に相当する広さです。内部の施設として、半地下式のカマド1基・主柱穴4基を含む柱穴9基などが見つかりました。東壁から検出したカマドの焚口の火床面には、羽子の転用と思われる筒形の土製支脚が立てて設置され、その上に打ち欠いた甕の底部が伏せてかぶせられていました。これは甕をカマドの火にかける時に使う支えです。

住居跡の床面には、全体にわたり貼床が見られました。貼床とは、住居建築時・改築時に掘り窪めた凹凸のある地面に土を入れて、平らに堅くつき固められた床のことです。また、壁際には壁溝が掘られていました。壁溝とは住居の壁にそって掘り下げられた溝のことで、壁の土が崩れないように押さえる板材の設置などのためにつくられたと考えられています。

遺物はカマド付近を中心に土師器・須恵器などが、西壁側を中心にまとまった炭化材が出土しました。

住居跡の中の土には、10世紀前半に降ったといわれている黄褐色の白頭山一苦小牧火山灰が含まれていたため、この住居跡は火山灰が降下する以前には使用されなくなったことがわかります。



支脚（甕の底部）出土状況



土製支脚出土状況

柱穴

竪穴住居跡に伴わない柱や杭と考えられる穴は62基見つかっています。大きさから2つにわけられます。大きいものは調査区の北東からのみ見つかっています。直径は60cm、深さ40cmほどあり、柱が腐った跡が見られました。建物の柱と考えられますが、建物を構成したほかの柱穴は、調査区外に分布すると思われ、建物全体の形は不明です。小さいものは直径20cm、深さが25～30cmほどあります。溝跡周辺で多く見つかっていますので、これに関連するものと考えられますが、詳しいことは不明です。



柱穴

焼土

焼けて赤くなり硬くなった土を焼土（やけつち・しょうど）といいます。竈穴住居跡の外では、今年度は3か所見つかりました。いずれも遺物は出土していませんが、円形周溝のなかやそばから見つかっており、何らかの関係があるかも知れません。



焼土

溝跡

今年度は13条見つかっており、大きさから2つに分けられます。いずれも直線的な形をしています。おおむね南北方向と東西方向に掘られています。地形の高いところから低いところへ向かって階段状に掘られているものもあり、水が流れていたものと思われる。また、ほかの遺構を壊してつくられており、この遺跡では新しい時期につくられたものといえます。土師器や須恵器などが出土しています。



溝跡

円形周溝

八戸市の鹿島沢古墳群とんどごふんや丹後平古墳群などに代表される終末期古墳に形が似ているので、その伝統を受けつぐお墓ではないかといわれています。その構造は、馬蹄形やC字形に溝を掘り、中央部分に棺などを置いた後に掘りあげた土を盛り土したと考えられています。本遺跡では見つかっていませんが、青森市浪岡の野尻（2）遺跡では、溝の中から人骨の可能性のある骨が出土しています。

本遺跡の円形周溝は、C字形に掘られた溝で、直径10～20mほどあり、深さ40～80cmほどあります。溝が途切れているところはほぼ南を向いています。中には、外側に弧状に溝が掘られ、拡張されたと考えられるものもあります。これと似たものは新町野遺跡や野尻（2）遺跡で見つかっています。また、野尻（2）遺跡でも見られる2基の円形周溝がつながってめがね状の形をしているものもあります。円形周溝に埋まっている土の中には、白頭山―苦小牧火山灰が含まれているものが多く、火山灰が降る以前につくられたことがわかります。溝に囲まれた空間から棺の跡などの主体部は見つかっていません。溝の中からは、土師器や須恵器、炭化した木材などが見つかっており、その多くは火山灰が含まれる層の上の層から出土しています。

この種の遺構は、津軽地方では、青森市内で三内沢部（1）遺跡、三内丸山遺跡、近野遺跡、新町野遺跡、杉の沢遺跡、山本（3）遺跡、野尻（2）遺跡、同（3）遺跡、黒石市浅瀬石遺跡などで見つかっています。いずれも、標高10～50mほどの丘陵地に多く見られます。



火山灰の堆積状況



拡張されたと考えられる円形周溝



めがね状の円形周溝



円形周溝出土遺物



円形周溝

出土遺物

出土遺物は、ほとんどが平安時代のもので、土器のほかにも土製品、鉄関連の遺物などがあります。そのほかにも若干の縄文土器が見つっています。

土器

本遺跡で見つかった平安時代の土器には、焼き方の違う2種類があります。ひとつは、古墳時代から使われはじめた「土師器」で、赤褐色や赤茶色をしており、やや軟らかいものです。もうひとつは灰色で硬い「須恵器」で、丘陵や台地の斜面につくられた窯で1,000度以上の温度で焼いたものです。須恵器は5世紀頃に大陸からわが国に伝えられたもので、青森県では平安時代の中頃からつくられるようになりました。本遺跡で出土した須恵器の多くは、土器の特徴からみて20kmほど離れた前田野目台地（五所川原市）で焼かれたものです。五所川原の窯跡で生産された須恵器は、青森県内のほぼ全域に濃密に見られるほか、南は秋田県大館市や鹿角市、岩手県久慈市、北は北海道オホーツク海沿岸の枝幸町までもたらされており、当時の物資の動きが意外に広がったことがわかります。

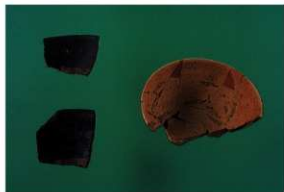
土師器は、煮炊きなどに用いられた甕、食品を盛りつける坏（今の皿や碗にあたる）があります。須恵器は、坏、米や液体などを貯蔵する甕・壺があります。土師器の坏には、内面に炭を付けて黒くしてへらでよく磨いているものとそうでないものがあります。また、須恵器の坏には、外面にへらで刻んで文字や記号を付けた刻書土器があります。今回の調査では、5点見つっています。いずれも遺構の中から出土しました。ひとつは「本万」と書かれおり、同じようなものは野木遺跡でも出土しています。ほかのものは記号のようなものが書かれていますが、具体的にどのような意味があったのはわかりません。



住居跡出土土器（第9号竪穴住居跡）



土師器（小型甕）



土師器（坏）



刻書土器



須恵器（甕・壺）

土製品

支脚とフイゴの羽口が見つかっています。支脚は炉やカマドにすえ、上に土器をのせて煮炊きをしました。本遺跡では羽口を転用したと考えられるものもあります。フイゴは金属の製錬・精錬の際に風を送るのに用いられました。出土したものは送風口にあたる羽口の部分です。



土製品

鉄関連遺物

鉄関連の遺物も少量見つかりました。青森県で製鉄が始まったのは、須恵器と同じく平安時代中頃と考えられます。本遺跡の南西にある野木遺跡では製鉄炉が見つかっています。鉄の原料は山や川からとれる砂鉄です。本遺跡では実際に鍛冶の跡は見つかっていませんが、羽口や鉄製品、鉄滓が出土しています。野木遺跡でつくられた鉄の素材（鉄のかたまり）を道具に加工するために本遺跡にもちこまれたのかもしれませんが。



鉄製品

ま と め

今年度は、4,250 m²を発掘調査しました。調査の結果、昨年度と同様に平安時代の遺構・遺物が見つかりました。遺構は、竪穴住居跡6軒、土坑7基、井戸跡1基、焼土3か所、柱穴・小ピット62基、溝跡13条、円形周溝3基が見つかりました。竪穴住居跡の基本構造は、ほぼ正方形の平面形で、地面を数10cm掘り込んだものです。これに付属する施設として、カマド・柱穴・壁溝などがあります。円形周溝は、その形態や開口部の方向などの特徴があり、これは新町野遺跡や野尻（2）遺跡で見られるものと共通します。主体部は検出されませんでした。また、いくつかの竪穴住居跡と円形周溝の堆積土中からは、白頭山―苦小牧火山灰が検出されました。円形周溝に壊された竪穴住居跡もあるため、集落は10世紀頃に営まれていたと考えられます。溝跡は円形周溝を壊してつくられており、本遺跡では新しい時期につくられたと考えられます。本遺跡は遺構の重複関係から、少なくとも3つの時期に分けられます。

出土遺物は、土師器や須臾器、土製品、鉄製品、縄文土器などです。これらは、ほとんどが遺構内から出土しています。円形周溝からは、坏が多く見つっています。鉄関連遺物とフイゴの羽口が出土しており、鍛冶が行われていた可能性があります。また、遺構外からは、少量の縄文土器が出土しています。

2か年の調査では、12軒の竪穴住居跡が、調査区の東西でそれぞれややまとまりをなして見つっています。これらの住居跡はカマドの方向や構造に違いがあり、いくつか時期に分けられる可能性があります。

遺跡は部分的に近代の宅地造成により破壊されていました。また、溝跡は調査区外に延びており、ほかの遺構の分布も調査区外に南北に続くものと思われます。

本遺跡の近くには、ほぼ同時期と見られる平安時代の集落の野木遺跡、新町野遺跡があります。両遺跡に比較すると本遺跡の集落はやや小規模です。

現在、発掘調査報告書刊行に向けて整理作業を行っています。報告書では、遺跡の性格がより明らかになるものと思われます。



発掘調査風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	『三内遺跡遺跡調査概報』	”	第 46 集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』	
”	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	”	第 47 集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
”	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	”	第 48 集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
”	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	”	第 49 集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
”	5	1971	『野木と遺跡調査報告書』	”	第 50 集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
”	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』	”	第 51 集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
”	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	”	第 52 集	2000	『大久沢野田(1)遺跡調査報告書』
”	8	1973	『篠内遺跡発掘調査報告書』	”	第 53 集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
	1979	『沢沢遺跡』	”	第 54 集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書・Ⅱ野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	
	1983	『四戸橋遺跡調査報告書』					
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	”	第 55 集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』	
”	1985	『長春遺跡発掘調査報告書』	”	第 56 集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』	
”	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	”	第 57 集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』	
”	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	”	第 58 集	2001	『大久沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』	
”	1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』	”	第 59 集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』	
青森市埋蔵文化財調査報告書			”	第 60 集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』	
”	第 16 集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	”	第 61 集	2002	『大久沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
”	第 17 集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	”	第 62 集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
”	第 18 集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	”	第 63 集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
”	第 19 集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	”	第 64 集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
”	第 20 集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』	”	第 65 集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
”	第 21 集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 66 集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
”	第 22 集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	”	第 67 集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
”	第 23 集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	”	第 68 集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
”	第 24 集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 69 集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
”	第 25 集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 70 集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
”	第 26 集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 71 集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
”	第 27 集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	”	第 72 集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
”	第 28 集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 73 集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
”	第 29 集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 74 集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
”	第 30 集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	”	第 75 集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
”	第 31 集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 76 集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
”	第 32 集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』	”	第 77 集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
”	第 33 集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』	”	第 78 集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
”	第 34 集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 79 集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅹ』
”	第 35 集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	”	第 80 集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
”	第 36 集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』	”	第 81 集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
”	第 37 集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』	”	第 82 集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
”	第 38 集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』	”	第 83 集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
”	第 39 集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 84 集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
”	第 40 集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	”	第 85 集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書ⅩⅠ』
”	第 41 集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』	”	第 86 集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅺ』
”	第 42 集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』	”	第 87 集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
”	第 43 集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 88 集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書』
”	第 44 集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	”	第 89 集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
”	第 45 集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』				

報 告 書 抄 録

ふりがな	ごうしざわまつもりかつこ2いせきはくつちようさがいほう
書名	合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第83集
編著者名	嶋影社憲、稲垣森太
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号 TEL. 017-761-4796
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ごうしざわまつもり 合子沢松森 (2)遺跡	あおもりけんあおもりしおひなぶ 青森県青森市大学 ごうしざわまつもり 合子沢字松森	02201	01262	40° 45' 54"	140° 45' 32"	20050509 ~ 20050708	4,250	東北新幹線建設工 事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
合子沢松森 (2)遺跡	集落跡	平安	竪穴住居跡 6軒 円形周溝 3基 土坑 7基 井戸跡 1基 焼土 3か所 溝跡 13条 柱穴・小ピット 62基	縄文土器 土師器 須恵器 土製品 鉄製品 鉄関連遺物	

要約	<ol style="list-style-type: none"> 合子沢松森(2)遺跡は、標高約35～50mの河岸段丘上に立地している。現在、遺跡は宅地・畑地・山林となっており、調査区内は部分的に近代の宅地造成により、削平されていた。 調査は昨年度に引き続き行った。調査範囲は新幹線の路線部分の幅約30～70m、長さ約150mである。今年度の調査面積は4,250m²で、2か年の調査面積は7,750m²である。遺構の分布は調査区外に南北に続いている。 今年度調査の結果、縄文時代の遺物及び平安時代以降の遺構・遺物が検出された。縄文時代の遺物は少なく、主体は平安時代の集落跡である。 縄文土器は早期・前期・後期に相当するものが散発的に出土する。 平安時代の遺構には竪穴住居跡6軒、円形周溝3基のほか溝跡などがある。遺構の重複関係から、遺跡は少なくとも3時期に分けられる。集落は10世紀頃に営まれたと考えられる。 平安時代の出土遺物には、土器(土師器・須恵器)のほか土製品(支脚・羽口)、鉄製品、鉄関連遺物がある。
----	---

青森市埋蔵文化財調査報告書 第83集
合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ

発行年月日 平成17年3月31日
 発行 青森市教育委員会
 〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号
 TEL. 017-761-4796
 印刷 株式会社 サンエイ
 〒038-0012 青森市妙見三丁目2番19号
 TEL. 017-738-0040